

名前:

私は今後も紙媒体である新聞や雑誌は少なからず必要ではないかと考える。インターネットの普及で確かに私たちはより簡単により多くの情報を得られるようにはなった。しかし便利な反面、それだけの弊害も発生する。というのもインターネットをこれほどまでに大規模なものにしたのは誰もが検閲を受けることなく自分の記事を書かれることにあるが、それは一方でそれまでの紙媒体で検閲を受け、通ることを与えられた権威が消失したことを意味する。紙媒体においても確かに権威を与えられたからといって、それがどれほどのものかは様々であるし人々の受け止め方もちがうわけではあるが、少なくとも雑誌にのっているのだから、といった情報へのある種の信頼感はあるはずで疑いなく情報を受け入れてきた。そして今までそうしてやられてきた。しかしインターネットで同じことをするとどうだろうか。インターネットは紙媒体とちがって得体の知れぬ情報が大量に顔

をして飛び交う世界である。同じように疑いもなく情報を吞み込んででは間違った情報にあやられ、生活が破たんする恐れさえある。人々の情報を嗅ぎ分ける力、すなわちメディアリテラシーが鍵となるのであるが、果たしてメディアリテラシーを常に万能に全ての人が持ち合わせられるかどうかは疑わしい。少なくともメディアリテラシーはインターネット上の情報を権威化した紙媒体によってその真偽を確認することを通して得られるものではないだろうか。雑誌や新聞からインターネット上の情報を超える情報を引き出すことは今後ないかもしれない。かといってインターネットの混とんとした世界を情報源の全てとするのは危険であるし、少なくともまだ早過ぎるであろう。新聞や雑誌はまだ情報源よりはむしろ情報源の確認としての役割を担うという大役が残されているように思われる。そしてその役割がインターネットに渡されることはないのである。

1800字